

### 2.5.3 計算結果

漂流状況の時系列追跡結果を沈下率別にみたものが図- 2.29、経過時間別に表したものが図- 2.30 である。

なお、到達時間は沈下率によって大きく異なるため、追跡日を表- 2.12 に示すようにケースによって変化させた。

表- 2.12 漂流状況の時系列追跡日

計算ケース	沈下率	追跡した日付 <sup>※</sup>
ケース1	空中:水中 = 0:1	2005/12/15, 2006/01/01, 01/15, 02/01, 02/15
ケース2	空中:水中 = 1:2	2005/12/10, 12/20, 12/30, 2006/01/10, 01/20
ケース3	空中:水中 = 1:1	2005/12/10, 12/20, 12/30, 2006/01/10, 01/20
ケース4	空中:水中 = 10:1	2005/12/5, 12/10, 12/15, 12/20, 12/30
ケース5	空中:水中 = 100:1	2005/12/2, 12/4, 12/6, 12/8, 12/10

※ 色分けは分布図中の粒子の色を表す

沈下率別の到達時間の概要を、表- 2.13 に示す。

ゴミの移動速度は表- 2.14 に示すように、ライター(空中:水中比=0:1~1:1)で 1km/h 以下、ポリ容器を想定したもの(空中:水中比=10:1)で 1~2km/h、ペットボトルを想定したほとんどが空中にあるもの(空中:水中比=100:1)で 4~6km/h とされた。

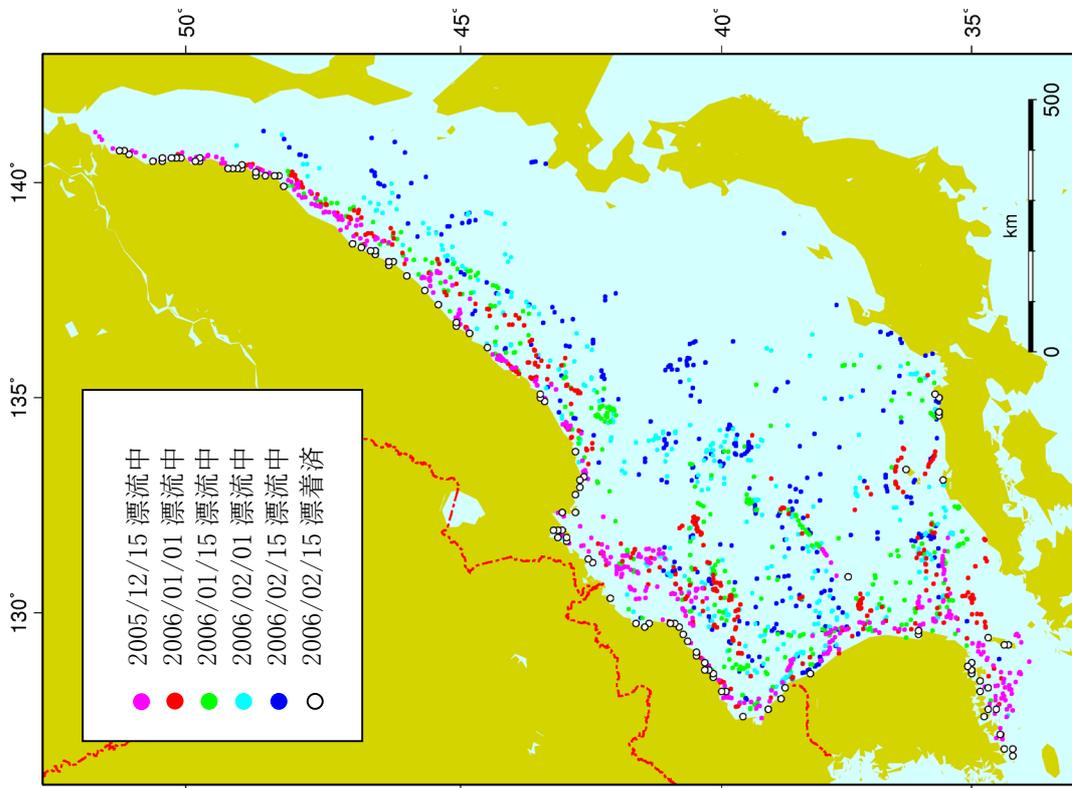


図-2.29(1) 漂流状況の時系列追跡(ケース1 空中:水中=0:1)

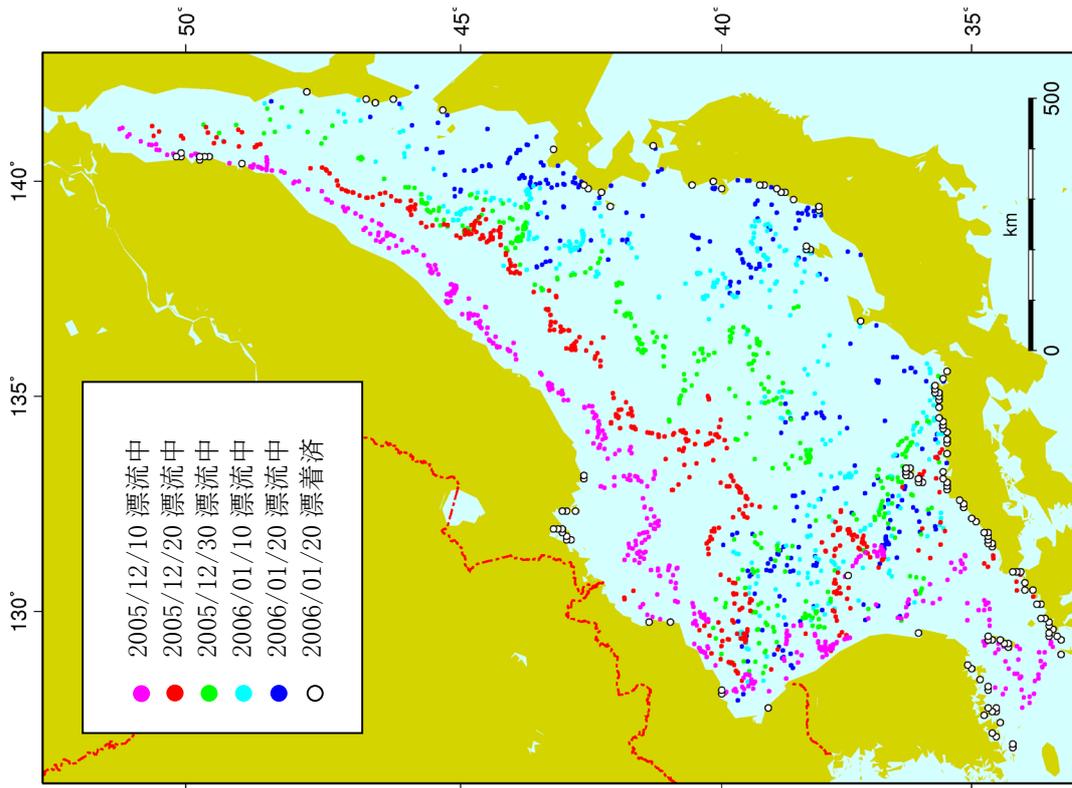


図-2.29(2) 漂流状況の時系列追跡(ケース2 空中:水中=1:2)

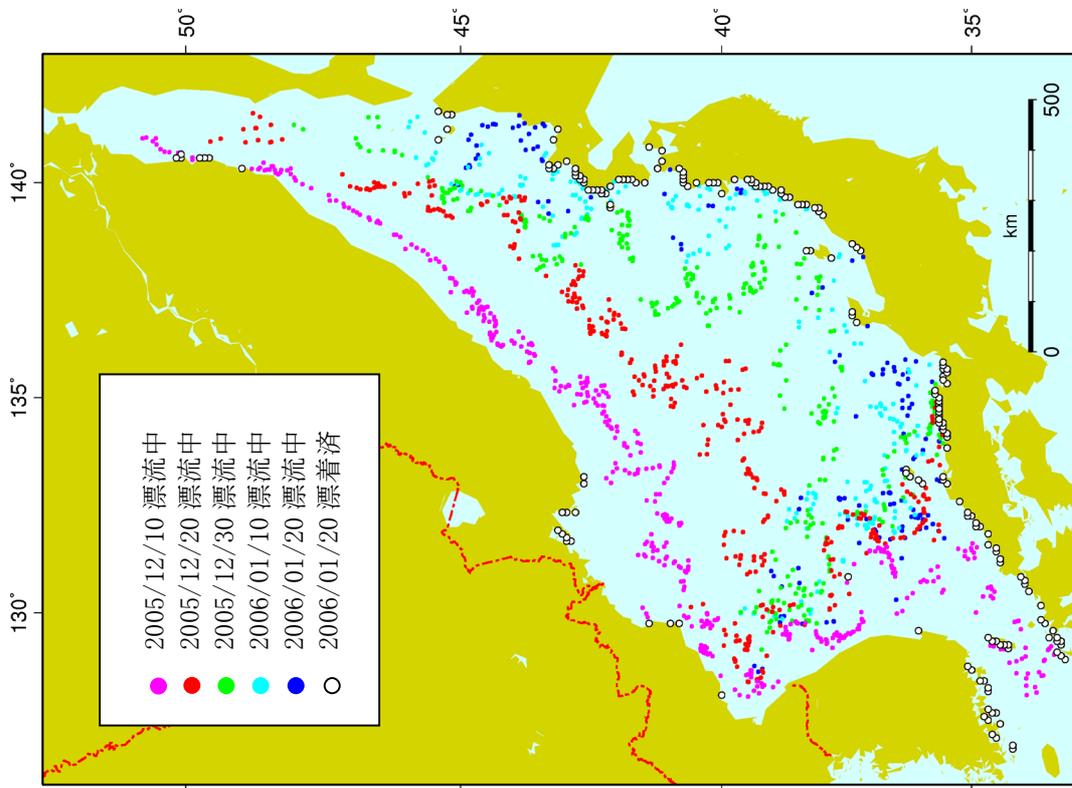


図-2.29(3) 漂流状況の時系列追跡(ケース3 空中:水中=1:1)

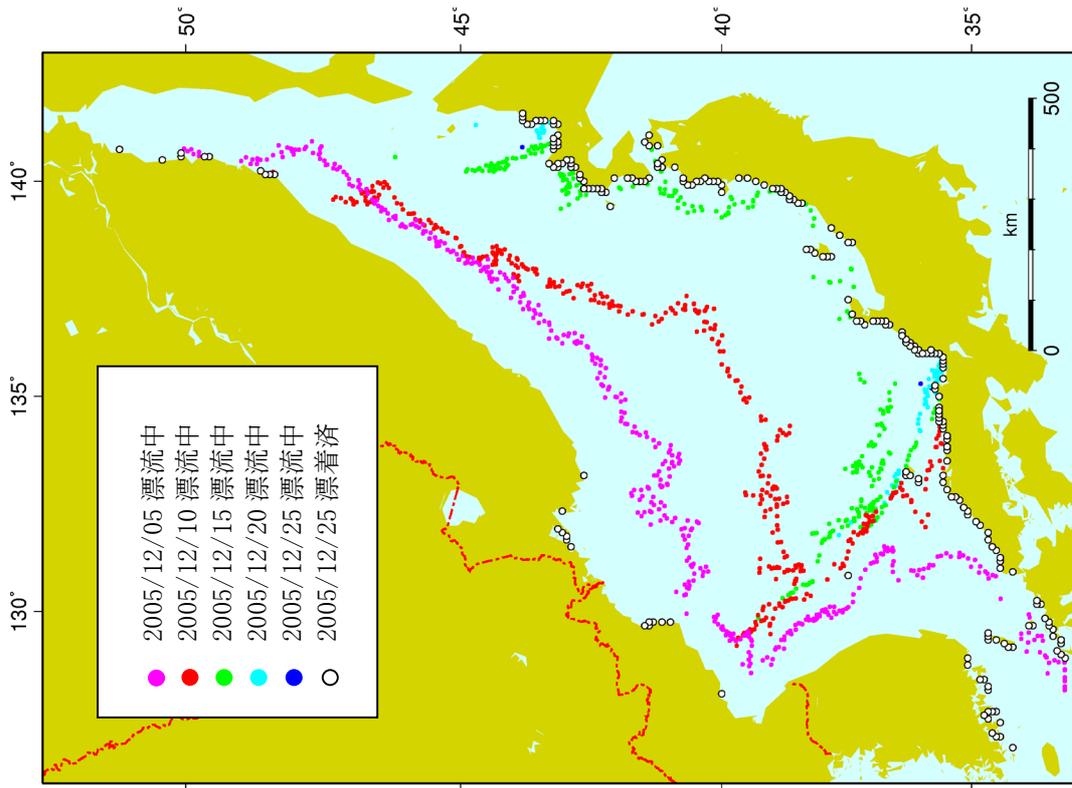


図-2.29(4) 漂流状況の時系列追跡(ケース4 空中:水中=10:1)

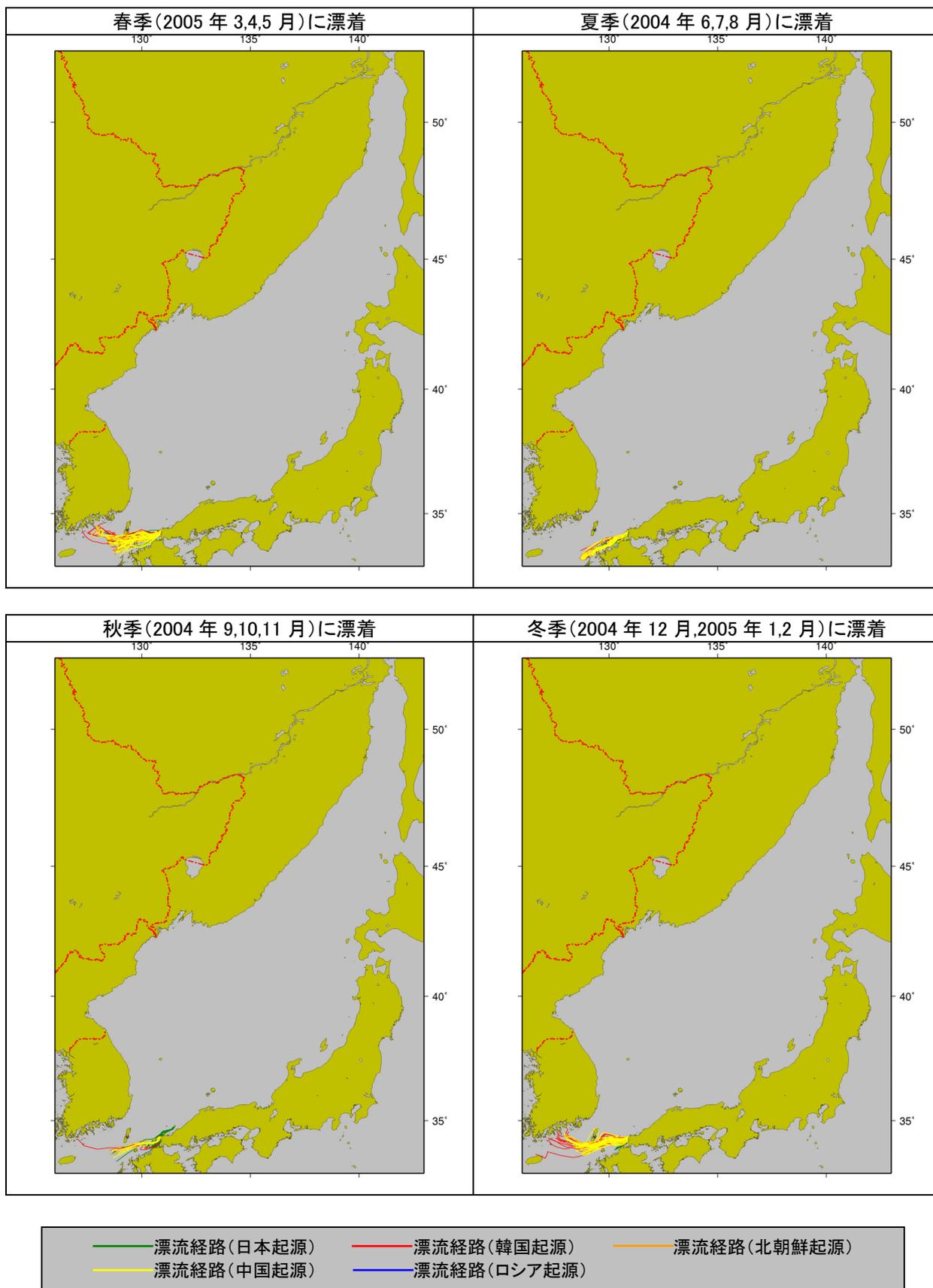


図- 2.23(9) 漂流経路図(山口漂着物)

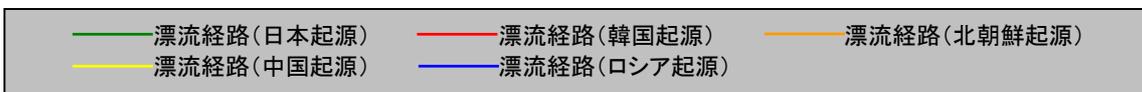
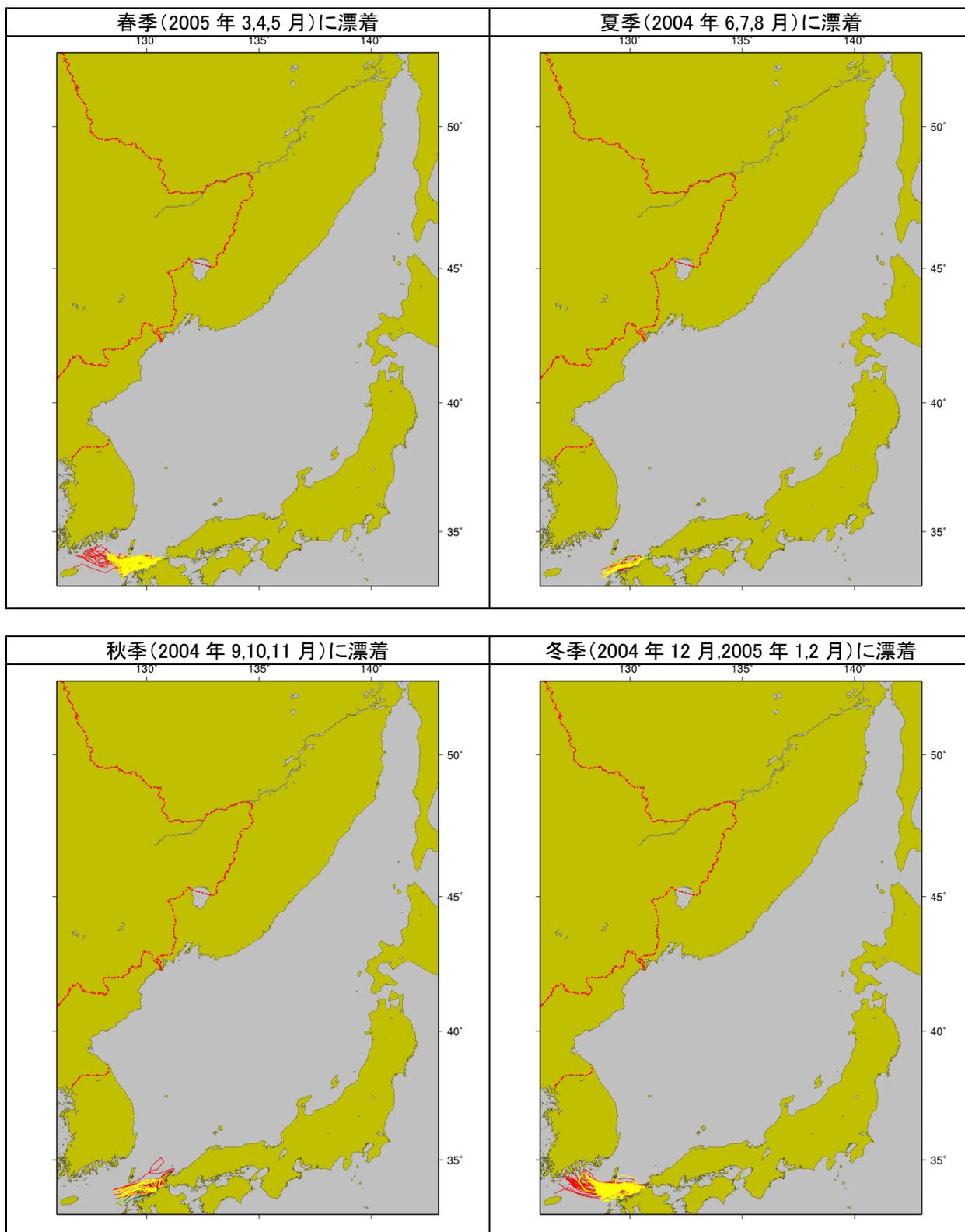


図- 2.23(10) 漂流経路図(福岡漂着物)

### (3) 発生国別の漂着特性

実態調査結果と良い一致がみられたケース4(ライターを想定)の計算結果から、発生国別にみた漂着地域等の特性を検討した(図-2.24)。

#### ① 日本で発生した場合

日本で発生したライターは、季節に関わらず主に日本の海岸に漂着し、韓国を除いてその他の国にはほとんど漂着しないものとされた。

#### ② 韓国で発生した場合

韓国で発生したライターは、ほとんどが韓国と日本の海岸に漂着するとされ、特に日本沿岸には冬季に多く漂着するとされた。また、冬季の漂着は日本の海岸全域であるが、春季は九州～中国地方沿岸に多く、秋季は東北地方～北海道沿岸に漂着するものが多いとされた。

#### ③ 北朝鮮で発生した場合

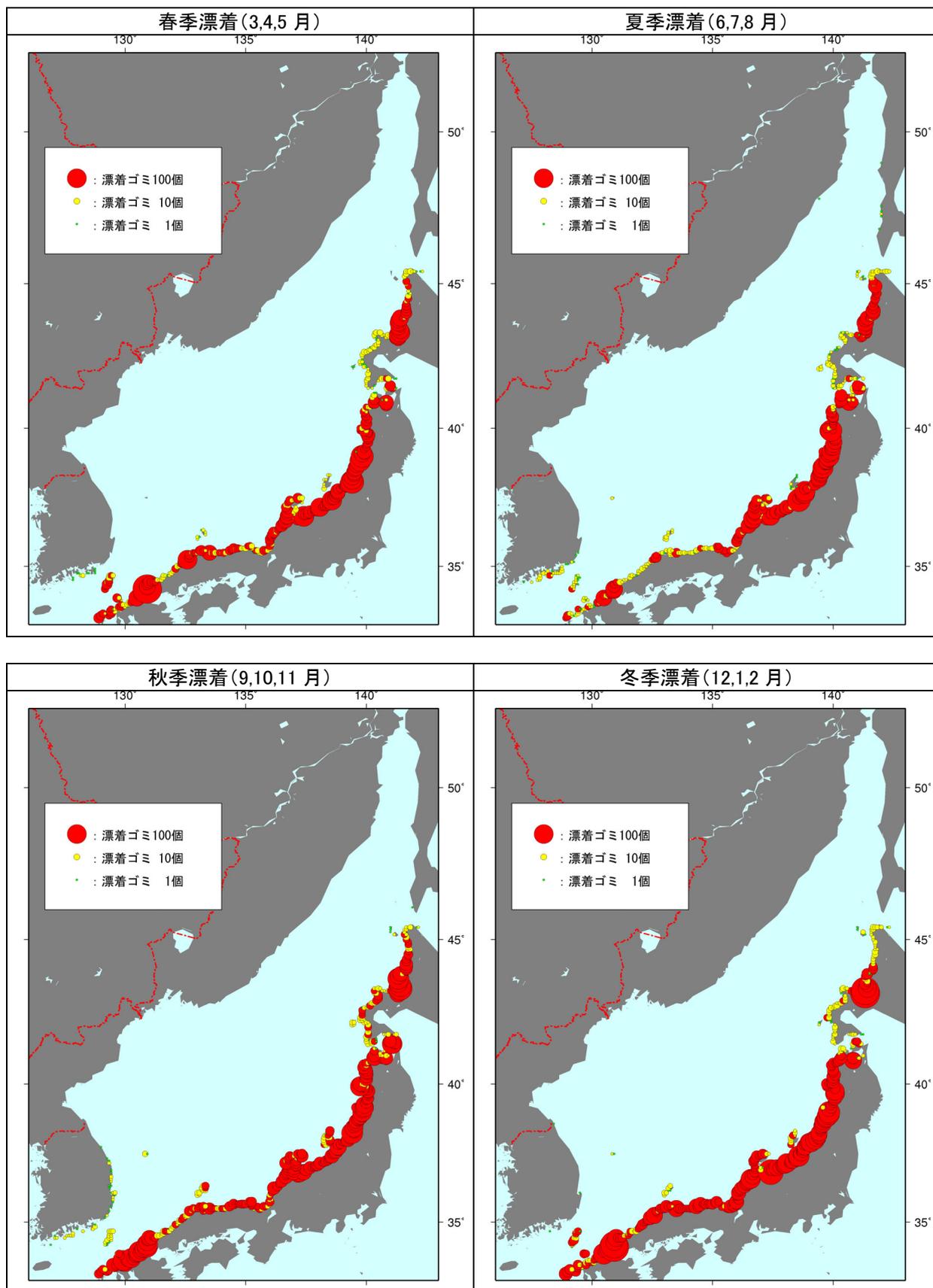
北朝鮮で発生したライターは、ほとんどが北朝鮮と日本の海岸に漂着するとされた。漂着範囲は日本の海岸全域ではなく、鳥取県～北海道に多く、夏季は北朝鮮の海岸に、冬季は日本の東北地方に漂着するものが多いとされた。

#### ④ ロシアで発生した場合

ロシアで発生したライターは、ほとんどがロシアと日本の海岸に漂着するとされた。日本の海岸では石川県～北海道への漂着が多く、春季、夏季、秋季はウラジオストック付近に、冬季は新潟～北海道にかけて漂着するものが多いとされた。

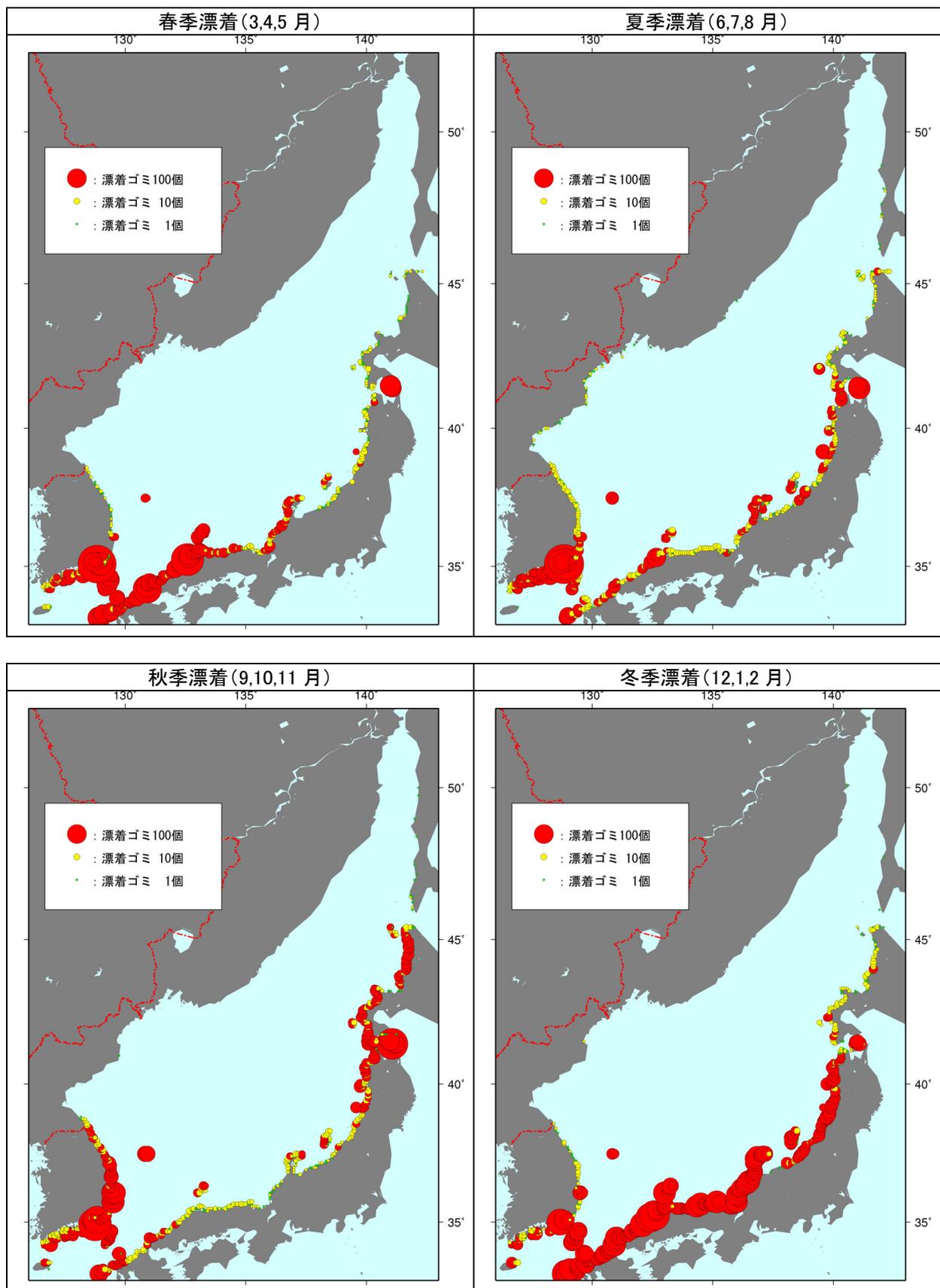
#### ⑤ 中国で発生した場合

中国で発生したライターは対馬海峡を通過して日本海に流入すると想定しているが、そのほとんどが日本の海岸に漂着し、一部が韓国の海岸に漂着するとされた。また、日本の海岸全域に漂着するが、当然ながら対馬から遠ざかるほど漂着密度が減少するとされた。



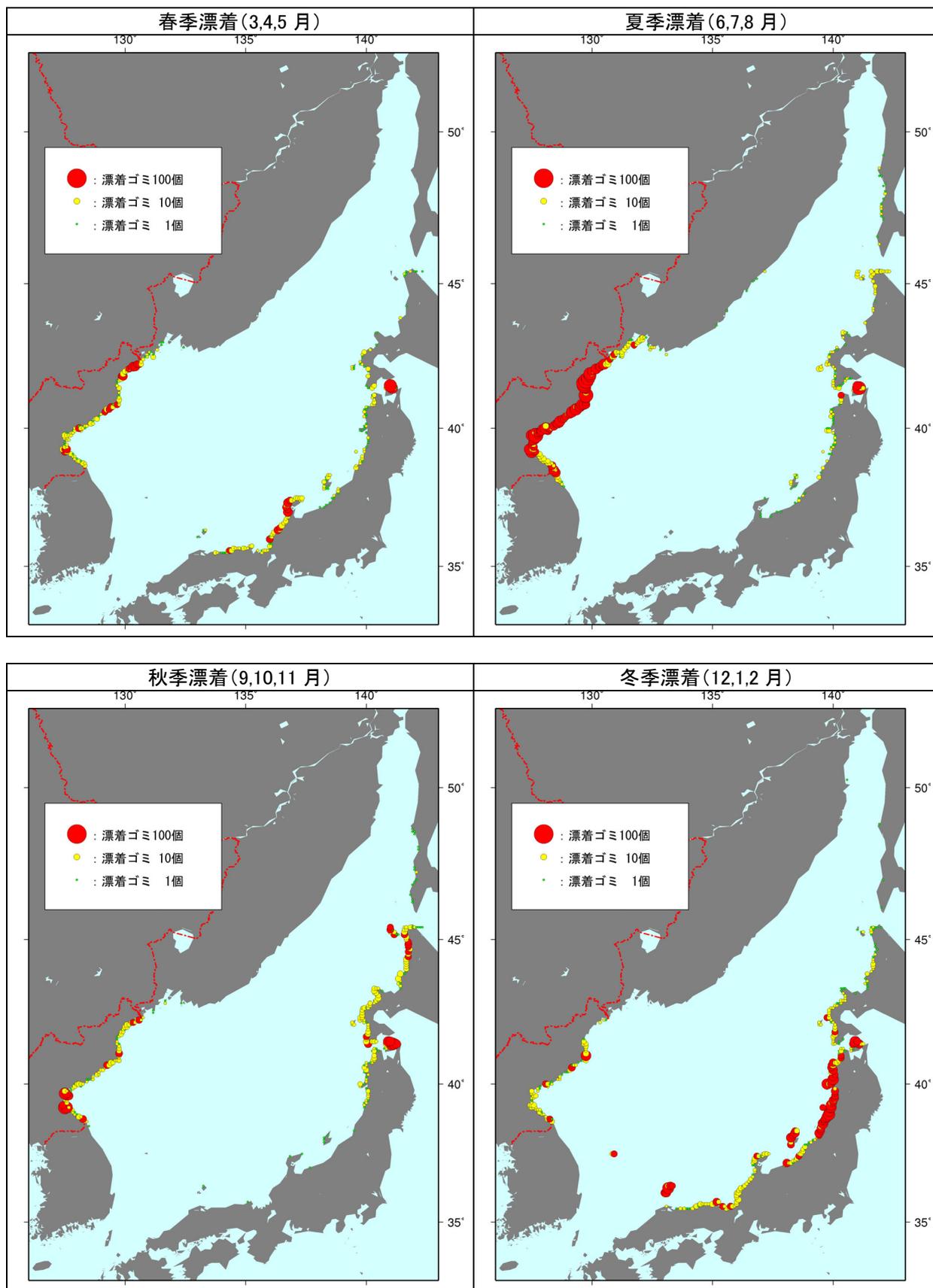
注: 凡例の色が表す個数の範囲は、●:1個、●:2個~10個、●:11個以上

図- 2.24(1) 日本で発生したライターの漂着密度分布(計算結果: ケース 4)



注: 凡例の色が表す個数の範囲は、●:1個、●:2個~10個、●:11個以上

図- 2.24(2) 韓国で発生したライターの漂着密度分布(計算結果: ケース 4)



注: 凡例の色が表す個数の範囲は、● : 1個、● : 2個~10個、● : 11個以上

図- 2.24(3) 北朝鮮で発生したライターの漂着密度分布(計算結果: ケース 4)